

(社)ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

# 東日本大震災 緊急支援 中間活動報告

2011.3.11 → 8.31



# 3.11 東日本大震災

## 人こそが人を支援できるということ

2011年3月11日、巨大な悲劇が私たちに襲いました。多くの命が失われ、多くの人々の人生が根底から変わってしまいました。大地震と津波、そして原発事故が、奪い、破壊したものの大きさは想像を絶していました。

私たちの脳裏には16年前の神戸での活動の記憶が蘇りました。そして当時学んだ最も大事なこと、きちっと組織されていれば、より多くのボランティアの活動がより多くの被災者の方々の役に立つ、という原理に基づき、私たちは地元の方々と協力し、いち早く災害ボランティアの募集を開始しました。

同時に、阪神淡路大震災をきっかけに、トルコ、台湾、パキスタン、新潟、中国四川省などでの大地震、スリランカの大津波、ハリケーン・カトリナなど、世界中の自然災害における緊急支援活動の経験を土台に、今回の東日本大震災に際し「(社)ピースポート災害ボランティアセンター」(以下、PBV)を設立、大規模かつ継続的な災害ボランティア活動

に向けて動き出しました。地元行政や社会福祉協議会までもが被災し、従来の災害対策が十分に機能しない中、宮城県石巻市へ派遣したボランティアは6,700人(日別のべ活動人数34,000人)に上ります。

東北の皆さんが、かつての生活を取り戻され、悲しみが癒される日が来るのは、まだまだ先のこともできません。しかし、私たちは、一日も早くその日がやってくるよう、「人こそが人を支援できる」という思いを胸に緊急支援、および復興支援活動を行っています。そして、その中で「人と人の絆」に根ざした、より良い社会の未来像を形作っていくことこそが、私たちにできる犠牲になった尊い命への弔いだと確信しています。

まだ、支援活動を続けている最中ではありますが、本当に多くの皆様からご協力をいただいたことへの感謝とともに、これまでの活動のご報告をさせていただきます。

## 宮城県石巻市での緊急支援活動

三陸沖、太平洋に面した優良な漁場を持つ宮城県石巻市。3月11日、最大で20mを越える津波に襲われ、3千人を越える犠牲者や地場産業の破壊など、今回の震災で最も大きな被害を受けた都市のひとつです。

PBVでは、震災後いち早く先遣スタッフを派遣、ボランティアによる緊急支援を決定しました。「石巻災害復興支援協議会」に加盟し、地元行政や社会福祉協議会、ほか支援団体とも積極的に協力しながら活動を行っています。大規模かつ組織的なボランティア受け入れの仕組みをつくることで、継続的で多様な活動ができるようになりました。

(協力団体一覧は、p.14参照)



### 石巻市被害状況

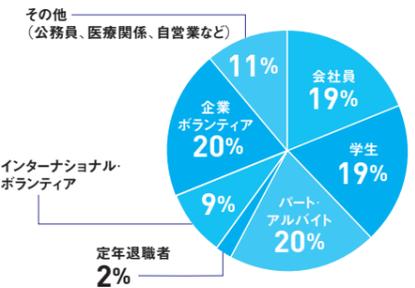
(9月14日現在、石巻市発表)

人口	162,822人(2月末時点)
死者	3,170人
行方不明者	759人
全壊・半壊家屋数	22,419棟



# 災害ボランティアの派遣とコーディネート —1日も早く1人でも多く、かつ多様なボランティアを—

ボランティア派遣人数 **6,695人**



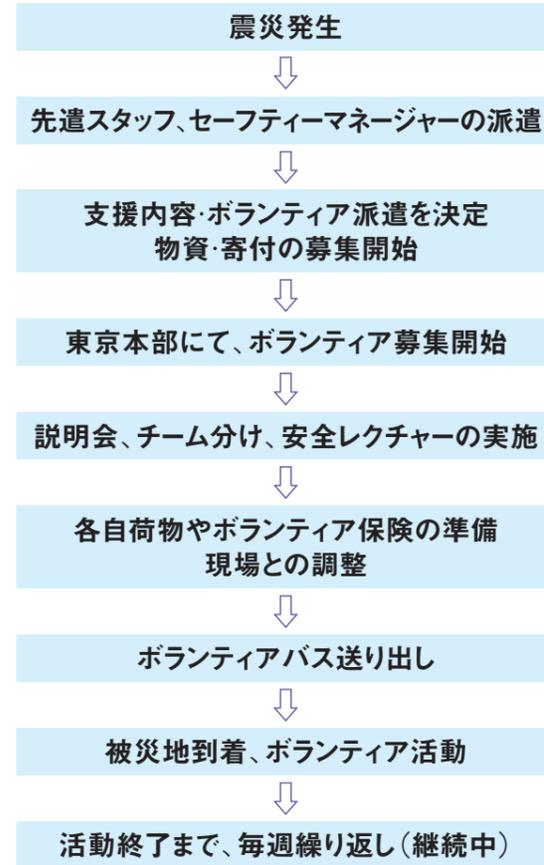
日別ボランティア活動人数 **34,388人**

※1日当たりの平均ボランティア数 約197人/日

3月	168人	6月	5,595人
4月	5,390人	7月	9,088人
5月	7,239人	8月	6,771人

※実績はすべて8月末集計の数字です。9月末時点で、ボランティア派遣人数は8,200人、日別ボランティア活動人数は41,000人を越えています。

## 災害ボランティア派遣の流れ



PBVがボランティア募集を開始したのは、震災9日後の3月20日。「ボランティアは時期尚早」という意見もありましたが、現場ではとにかく人の手でしか解決できない被害が広がっていました。PBVでは、現場でスムーズかつ安全な活動を行えるよう、事前に東京などで説明会を実施、ボランティア希望者は被災地での心構えや安全レクチャーを受け、チームとリーダー決めを行った上で、全員が揃ってバスで移動しました。事前にチームの顔合わせをし、メンバーのバランスを取ることで、体力的・精神的にも支え合いながら現場活動を行うことができました。また、海外からのボランティア希望者には、バイリンガルの通訳ボランティアをグループに組み入れ、企業ボランティア向けには事前打ち合わせや出張説明会を実施するなど、積極的に多様なボランティアを受け入れるよう努めました。

ボランティアバス派遣回数

1週間の定期ボランティア派遣回数 **22回**

2,3日の短期ボランティア派遣回数 **37回**

事前説明会実施

**42回**(東京、大阪、名古屋、福岡、神戸、静岡、広島)

インターナショナル・ボランティア

日別のべ活動人数 **2,337人**(49ヶ国)

企業ボランティア

日別のべ活動人数 **2,933人**(45社+28団体)

## 多様化するボランティアの形

### 東京ボランティア ～現場を支える後方支援～

被災地での円滑で大規模な緊急支援を実施するためには、東京本部での後方支援が必要不可欠でした。PBVの東京事務所での支援物資の受付や仕分け、説明会やボランティアバスの準備・実施、問い合わせの対応やその他事務処理など、のべ4,000名を越えるボランティアが東京

での後方支援に当たりました。特に、繰り返し行った街頭募金活動は単なる支援金集めという意味合いを越え、マスメディアによる情報が減少する中、被災地への関心を風化させないための役割も担いました。

### インターナショナル・ボランティア ～世界中から集まった多国籍ボランティア～

PBVでは、「自然災害に対する国際協力は平和をつくる」との想いから、国境と言語の違いを越えた多国籍の外国人ボランティア=インターナショナル・ボランティアを積極的に受け入れました。これまでに49ヶ国から640人(日別のべ活動人数2,337人)が活動。今回の震災で活動した団体

の中でも最大数です。スリランカからのボランティアは「スマトラ沖の津波で日本の医療団が真っ先に駆けつけてくれた恩返し」と、瓦礫撤去や伝統音楽の演奏などに大活躍しました。その他、各国大使館を通じた物資支援やチャリティイベントによる寄付など、大きなご協力をいただきました。

### 企業ボランティア ～顔を見えるCSR(企業の社会的責任)活動が活発化～

5月以降「社員を被災地のボランティアに」という企業からの申し出が続きました。義捐金や支援物資などによる従来の社会貢献に加えた、従業員つまり人によるCSRの新しい動きです。PBVでは、ブリヂストン、日本IBM、大和ハウス、三菱商事など45社、日別活動人数のべ2,900人と

いう最大規模の企業ボランティアを受け入れました。また、大学など教育機関と学生団体の受け入れも積極的に行いました。学生や現役の社会人の活躍は、これからの長い復興に必ず大きな社会的影響をもたらすことになるかと期待しています。

※また、ap bank Fund for Japan(約1,400人派遣)、コムビート(約230人派遣)、Habitat for Humanity(約60人派遣・継続中)とは、PBVと相互協力しながら石巻市でのボランティア活動を実施しました。(団体名は略称表記)

## ボランティア参加者の声

とにかく何かやらなきゃ、と4月頭に初めてボランティアに参加しました。テレビや新聞では現地の本当のことは分かりません。私の担当は炊き出しでしたが、それがなければ4月後半までおにぎりや菓子パンの配給しか届かない状態。「足りないのは食糧よりも食事」だと思うようになりました。とにかく人手が圧倒的

に足りなかったで、「忙しい」を言い訳にせず時間を作り、再度石巻に行きました。その後も、仲間で復興支援のための学生団体を作ったりしながら、自分にできることを続けています。

増田萌那

(早稲田大学学生、4/1から1ヶ月余り現地ボランティアとして活動)

私自身は、尼崎の出身で阪神の震災を経験しています。今回、社内の社会貢献部門とアメフト、ラグビー部のコラボレーションにより東北のボランティアに参加することを実現しました。1回3日間の短い日程ですが、ボランティア休暇を活用したりで、これまでにメンバーの半数を超える約90名が参加しています。石巻では泥かきや側溝清掃などの肉体力作業

が中心。キツイ作業でしたが、職場やチームのみんなと一つのことをでき、いい経験にもなりました。けれど、本格的な復興に長い時間がかかることも知りました。また、時間を作って参加したいと思います。

徳地正也

(日本アイビーエム株式会社、IBM Big Blue Americanfootball アシスタントヘッドコーチ)

Facebookを通じて、ボランティアのことを知りました。その後、7月に約1週間石巻に。テントで生活しながら、漁業支援を手伝いました。ほかにも、中国、ブルガリア、フランス、米国からのボランティア、このために来日したスイス人男性もいました。海外でのニュースは原発事故の暗いものばかりで、日本に行く

ことを怖がる友人もいます。でも、東北では逆にパワーをもらったし、大好きな日本だからこそ、ボランティアや石巻の優しい方々のポジティブな日本の姿も知ってほしいと思っています。

Sam Berry

(イギリス出身、7月に現地ボランティアとして活動)

# 活動カレンダー



## 3月 2011 March

### 石巻市の動き

### (社)ピースボート災害ボランティアセンターの動き

14時46分 東日本大震災発生 宮城県知事 自衛隊へ災害派遣要請 「災害対策本部」設置	11日	
	14日	第一次救援物資の募集開始
石巻専修大学に、災害ボランティアセンター開設	15日	
	17日	先遣スタッフ4名が宮城県石巻市に到着 水、食料などの第一次救援物資配布を開始
	18日	全国で街頭募金を開始
石巻専修大学にて、 「NPO/NGO支援連絡会」が開催(以後、毎日継続)	20日	災害ボランティアの一般募集を開始 炊き出し道具、食料など、第二次救援物資を搬送
	21日	ボランティア受け入れ準備スタッフ・ボランティア7名が石巻に到着 炊き出しを開始
	23日	東京・高田馬場にて、 「第一回災害ボランティア説明会」開催、300人以上が参加
	26日	第一次定期現地派遣ボランティア約50名が到着(以後、毎週金曜日に出発) 泥かき、民間物資倉庫の管理、避難所でのお手伝いを開始
災害ボランティアセンターが、県外からの一般ボランティア募集開始 応急仮設住宅の建設開始	28日	

## 4月 2011 April

「NPO/NGO支援連絡会」を「石巻災害復興支援協議会」に改名	2日	
「石巻災害復興支援協議会」を中心に、「まちなかスマイルプロジェクト」を開始、 約1,000人のボランティアが石巻中心部を清掃	10日	石巻市中心部の泥かき、がれき撤去を行う「まちなかスマイルプロジェクト」を開始
「復興対策室」設置	11日	東京・信濃町にて、「第一次災害ボランティア報告会」を実施 中東各国6ヶ国の駐日大使による石巻視察をコーディネート
	12日	中南米各国6ヶ国の駐日大使による石巻視察をコーディネート
罹災・被災証明発行開始	14日	
「石巻市震災復興推進本部」設置	15日	
	16日	入浴支援を開始
	19日	一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)を設立
石巻市立の小中学校が始業式	21日	
	24日	「第73回ピースボート」が横浜を出発、15ヶ国で東日本大震災写真展を実施
	27日	大型連休対策として、追加180名のボランティア受け入れを決定
震災から「四十九日」、大川小学校で合同慰霊祭	28日	
第1次仮設住宅の入居開始	29日	

## 5月 2011 May

	1日	保育所・幼稚園の泥かき・清掃を行う「子どもスマイルプロジェクト」を実施
ゴールデンウィークの大型連休でボランティア数が最高に、最大1日3,000人が活動	3日	大型連休の大規模ボランティア受け入れのため、 石巻市新館の新ボランティア宿泊施設の使用開始
	4日	宮城県女川町の仮設住宅への生活必需品の運び入れボランティア開始
	5日	渡波小学校にて「こどもの日・映画祭」、「乙武洋匡さん特別授業」を実施
	7日	1日あたり最大となる600名以上のボランティアが活動
	14日	スリランカ政府派遣の公式ボランティアが石巻に到着、3週間に渡る支援活動をコーディネート
	15日	神戸、名古屋にて、「災害ボランティア説明会」を実施(以後、複数回実施)
	17日	短期日程での災害ボランティアの募集を開始
	17日→19日まで	ソウル・フラーワー・ユニオンによるライブツアーを実施
	21日	福岡にて、「災害ボランティア説明会」を実施(以後、複数回実施) 日本サッカー名蹴会サッカークリニック実施
	22日	大阪にて、「災害ボランティア説明会」を実施(以後、複数回実施)
石巻専修大学で入学式	23日	
	24日	東京・高田馬場にて、「第一次短期派遣ボランティア説明会」開催(以後、継続)
第1回雄勝復興市が開催	28日	
台風2号の影響による大雨と強風	30日	

## 6月 2011 June

	1日	石巻市中央の居酒屋「廣山」にて「セントラル・キッチン」をスタート
「石巻災害復興支援協議会」にて、「ダニバスターズ」結成	3日	避難所のダニ駆除や清掃を行う「ダニバスターズ」が活動開始
	4日	石巻市雄勝町の漁具回収・漁業支援を開始
	10日	押尾コータローさんギターミニコンサートを実施
飯野川第一小学校にて「こいのぼり祭り」が開催(～12日まで)	11日	
	12日	東京・広尾にて、「震災から3ヶ月、災害ボランティア報告会」を実施、300人以上が参加
石巻市「震災復興基本計画市民検討委員会」設置	14日	
自衛隊と「石巻災害復興支援協議会」が連携し、一斉清掃	16日	
石巻市総合運動公園にて「東日本大震災犠牲者 石巻市慰霊祭」	18日	「東日本大震災犠牲者 石巻市慰霊祭」にボランティアも参列
倒壊家屋等の撤去作業開始	20日	
自衛隊による炊き出しが終了	27日	
	28日	被災した水産加工工場「木の屋」の缶詰拾い活動を開始 そのほか、伝統産業、地元産業の復興支援を開始

## 7月 2011 July

	1日	ボランティア数確保と夏に向け、派遣条件を大幅に改善
第2回雄勝復興市が開催	2日	静岡にて、災害ボランティア説明会を実施 避難所の虫除け・熱中症対策として網戸設置を開始
	10日	英国外務省国務大臣の石巻視察をコーディネート
石巻漁業市場水揚げ再開	12日	
〈新潟・福島で豪雨水害が発生〉	13日	
JR仙石線 石巻-矢本間再開	16日	「石巻発展の父」川村孫兵衛さんのお墓を清掃
	24日	「第1回 福島子どもプロジェクト」福島県南相馬市の中学生49人が成田空港出発
自衛隊による入浴支援が終了	27日	
石巻市より自衛隊完全撤退	29日	
「第88回 石巻川開き祭り」灯籠流し	31日	新潟豪雨水害被害の三条市へ救援物資を運搬

## 8月 2011 August

「第88回 石巻川開き祭り」お祭りと花火	1日	「第88回 石巻川開き祭り」にて、「石巻復興市」を実施、ステージのコーディネート
	4日	「第1回 福島子どもプロジェクト」が帰国
	9日	福島県豪雨水害被害の金山町へボランティア派遣
	11日	宮城県女川町にて、倉木麻衣さんミニコンサートと炊き出しイベント
震災犠牲者にとっての初盆を迎える	13日	
「石巻市震災復興基本計画」の骨子策定	17日	
	22日	仮設風呂「絆の湯」「不動の湯」をオープン

## 炊き出し&物資配布

—温かい食事と生活用品を効果的に届けるために—



炊き出し総数 **101,483食**

(3月 2,080食 / 4月 29,460食 / 5月 26,180食 / 6月 22,195食 / 7月 14,164食 / 8月 7,404食)

支援物資の配布 **1,780t分**

配布地域 石巻市、女川町、東松島市内**36**地域(避難所含む)など

口にできるのは、たった2個のおにぎりと菓子パンだけ。その状況は4月末まで続き、その後の配給も冷たいお弁当に限られるなど、炊き出しはPBVとしての最も重要な活動になりました。地元行政や自衛隊による炊き出しが大きな避難所に限られていた中、独自調査に基づき、支援の届きづらい在宅避難の方々の元へも、積極的に温かい食事と生活物資の配布を実施しました。また、外部団体による炊き出し場所や食数調整、民間支援物資倉庫での全体調整など、より効果的で素早い支援が被災者一人ひとりに届くようコーディネートを行いました。

※大量、そして多種類の食材を安定的に確保するため、ハルシステム、大地を守る会、セカンド・ハーベスト・ジャパン(団体名は略称表記)など、多くの企業・団体からも協力いただきました。



## 避難所への支援

—ニーズの変化に合わせた、きめ細かい支援を—



活動した避難所 石巻市、女川町、東松島市内**60**ヶ所

活動内容	滞在サポート	<b>3</b> ヶ所	派遣人数 <b>110</b> 人
	入浴支援	<b>3</b> ヶ所	利用者のべ <b>5,353</b> 人
	布団・毛布の除菌・乾燥	避難所 <b>59</b> ヶ所	実施 <b>7,846</b> 枚分
	網戸の設置	避難所 <b>10</b> ヶ所	実施 <b>465</b> 枚分

当初、石巻市本庁エリアだけで避難所は約170ヶ所。避難所によっては、生活物資や受けられるサービスに大きな偏りがあったり、統廃合により何度も移動せざるを得ない被災者の方々も多くいらっしゃいました。PBVでは、物資サポートはもちろん、長く避難所生活が続く方々の精神的な支えにもなる活動を重視しました。物資や炊き出しの配布、交流会の実施、仮設風呂での入浴支援から布団のダニ駆除や網戸の設置にいたるまで、個々の避難所の状況や季節に合わせた幅広い活動内容となりました。

※避難所での支援活動の多くは、石巻市役所や石巻災害復興支援協議会に加盟する支援団体との協力・連携により行いました。



### みんなの台所「セントラル・キッチン」

当初、炊き出しの料理作りは屋外に作った仮設キッチンで行っていましたが、梅雨入りを前にした6月1日、衛生状態や提供必要数の増加にも対応できるよう、石巻市中央町にある居酒屋「廣山」へキッチンを移動しました。その結果、時間の経過とともに外部団体や自衛隊が撤退し、石巻での炊き出し総数が大きく変化中、安定した食数と栄養バランスに配慮したメニューの提供に対応することができました。また、キッチンスタッフとして被災者を雇用し、ボランティアと地元の方々が協力しながら支援活動を行うモデルとしても大きな意味を持ちました。



### 湊小学校での卒業式

石巻市立湊小学校。津波被害の大きかった湊地区にあり、最後まで存続した避難所でもあります。震災後は、1階はヘドロで覆われ、2階以上の教室や体育館は避難されている方でいっぱい。使える教室がなく、予定されていた6年生の卒業式は中止されました。それを聞いたボランティアは、急いで図工室の清掃を実施、3月29日にその場所で6年生の卒業式が行われました。「8年後の3月11日、ここで成人式をやろう。震災を乗り越えて、たくましく生きた君たちの8年間の報告を楽しみにしているから」という担任の先生の表情には、卒業を祝ってあげられる嬉しさとあふれ出る涙がありました。



## ヘドロが入り込んだ建物や町の清掃 —津波被害が生んだ最も大規模なボランティア—



泥かき・清掃実施 **1,776**件  
側溝清掃 **約43**km  
実施場所 **石巻市内20**地区

津波が襲った地域では、いたる所に強烈な臭いと有害物質を含んだヘドロが入り込んでいました。ヘルメットや防塵マスクを装備し、重い畳や家具を運び出し、泥だらけになった思い出の品を洗い再生する。作業によって綺麗になっていく店内と、繰り返し繰り返し清掃作業を行うボランティアの懸命な姿に刺激を受け、再開を心に決めたお店もたくさんあります。危険を伴う重労働にも関わらず、毎日明るく元気に活動する姿がなにより精神的な支えになったと、地元の方々に喜ばれました。

BEFORE



4月10日の石巻市中心部の様子

AFTER



8月30日の同地区の様子

### 「石巻川開き祭り」が開催

7月31日、8月1日の2日間、石巻最大の夏祭り「石巻川開き祭り」が開催されました。石巻駅から続く、立町通りや中央町の商店街は、大勢の市民で賑わいました。石巻の中心となるこの地区も、震災直後はヘドロに覆われ、とてもお祭りを開催できる状態ではありませんでした。当日は、再開したお店が屋台を出し、瓦礫で作った復興神輿が通りを練り歩き、犠牲者を追悼する1万個の灯籠が流され…。ボランティアも、石巻市民も、一緒になって泣き、笑い、明日への一歩を誓った2日間となりました。



## 石巻市・女川町でのその他の支援活動

### 漁業支援

—漁港の清掃から牡蠣の養殖のお手伝いまで—



牡鹿半島や雄勝地方、女川町など、三陸沖の海岸は日本でも有数の漁場。しかしながら、今回の震災とともに、養殖産業や水産加工産業は壊滅的な被害を受けてしまいました。漁業の再生こそ復興の証。漁具の回収や漁港の清掃、牡蠣の養殖のお手伝いなどを行いました。

実施した浜 **石巻市内12**地域

### 仮設住宅への支援

—女川町の仮設約1,300戸に生活必需品の運び入れ—



震災で収入源を失った被災者の方々も多く、光熱費や食費の支払いが発生する仮設住宅への移動後も厳しい生活は続きます。せめて新しい生活に必要な物資を、と女川町の仮設住宅一つひとつに家具や食器、布団などを運び入れています。

実施した仮設住宅 **女川町27**地域 **1,015**戸

※運び入れる生活必需品は、西友/Walmart/イケア・ジャパン/ワールドビジョンジャパン/Habitat for Humanity(団体名は略称表記)からもご協力をいただきました。

### 産業復興支援

—地元の力を取り戻し、町に活気を—



震災後、営業を再開し自立を目指す地元のお店を応援しようと活動しました。硯で有名な雄勝町では雄勝石を拾いアクセサリ作成、被災した工場から一つずつ生き残った缶詰を拾い洗い出す作業、地酒や野菜の販売のお手伝いなど、1日も早い地場産業再生へのプロジェクトです。

### 教育・文化・音楽・スポーツイベント

—子どもたちに元気と希望を—



津波で学用品を流されてしまった学校、授業を再開するも運動場が使えないなど、子どもたちを取り巻く環境はまだまだ厳しいものです。子どもが子どもらしく成長できる環境づくりのお手伝いを、と教育や芸術、スポーツイベントなどを通した支援を行いました。

石巻市での音楽・スポーツイベントなど **実施12**回

※石巻市、女川町、東松島市、大船渡市などで実施し、アーティストやスポーツ関係者の方々などにご出演・ご協力いただきました。

# 福島子どもプロジェクト —夏休み、南相馬の中学生がアジア各国で国際交流—

日本がかつて経験したことのない原発事故に見舞われた福島県の子どもたちに「夢と健康」をプレゼントしたいと立ち上げたプロジェクト。南相馬市は、避難基準となる原発半径20kmを含む場所で、放射線の危険と情報の混乱などにより、子どもたちやその両親は大きなストレスを抱えながら生活しています。夏休みの短期間だけでも子どもたちを安全なところへ避難させる「南相馬こどものつばさプロジェクト」の一環として、6つの中学からの49名をピースボートの船旅に招待しました。ほとんどの子どもたちにとっては初めての海外体験。ベトナム、シンガポール、スリランカとアジア3ヶ国を巡り、思いっきり外で身体を動かし、飛びっきりの国際交流を楽しみました。

## 呼びかけ人

- 鎌田 實 (諏訪中央病院名誉院長・作家)
- 田部井 淳子 (登山家)
- 田中 優 (環境活動家)
- 香山リカ (精神科医)

※本プロジェクトはピースボート事務局との共同で実施されました。



子どもの声  
外国で友達を作りたいという夢がかなったのがうれしかった。ベトナムはにぎやかでやさしい人たちが多く、楽しかった。また行きたい。



## その他の活動

### 講演・イベントなど 実施回数 **53**回

現地での最新状況を伝えるとともに、東北への関心を風化させないためにも積極的な講演やイベント参加、またピースボートクルーズを通じた世界各国への発信を心がけました。

### 福島県金山町・水害被害への緊急支援

8月、新潟と福島を襲った大雨により各地で豪雨被害が発生。福島県金山町へ津波被害での支援経験を持つ約30人のボランティアを派遣、公共施設の清掃などの緊急支援を行いました。

### 台風12号・和歌山県水害被害への緊急支援

9月、台風12号による水害被害への緊急支援のため、人手不足が深刻な和歌山県熊野川町へスタッフ・ボランティアを派遣しました(9月中旬現在も継続中)。



## 募金報告

支援物資の輸送費、炊き出しや泥かき道具の購入をはじめ、大規模な緊急支援を展開するにあたり、多くの個人・企業の皆様にご寄付をいただきました。また、全国で実施した街頭募金にご協力いただいた方も含め、活動を支えていただいた皆様に心よりの御礼を申し上げます。

募金・寄付総額 **44,720,688**円 (1,053件)  
街頭募金・カンパ **14,212,581**円 (305回実施)

※その他、国内外の東日本大震災の緊急・復興支援のための助成金により、PBVの活動は運営されています(助成をいただいた企業・財団のご紹介はp.14をご覧ください)。合わせて、心よりの御礼を申し上げます。

## 石巻からの声

### 石巻市長 亀山 紘 氏



東日本大震災から6か月、これまで多くのボランティアの方々が全国各地はもとより、海外からも石巻市を訪れ、泥清掃、炊き出し、メディカル、キッズ、心のケアなど、ハード、ソフト両面から様々な活動をしていただきました。また、個人ボランティアとNPO等の団体ボランティアの機能と役割のすみわけを図るとともに、相互に連携し合いながら、有機的なボランティア活動を通して、津波の恐ろしさと被害の爪痕におのき、震える被災者に手を差し伸べていただきました。本当にありがとうございました。15万人市民を代表して感謝と御礼を申し上げます。半年が経過しましたが、被災した人々の心の痛みの重さ、深さはさまざまであり、時間がたてば心の痛みが一樣に消えるというものでもありません。寄り添うボランティアの人々に支えていただきながら、焦らずゆっくり前を向いて歩き始めて欲しいと思っています。地震や津波で被災した地域の人々は、これまで以上に他者に対して広い心を持ち、ボランティアの方々を全面的に受け入れてくれました。生死を境とする未曾有の災害に遭遇し、ぎりぎりに追い詰められたときに、縄文時代から東北人の心の奥底にしまわれていた心の優しさが蘇ってきたものと思います。これからは、この蘇った魂を大切に、支え合う人の優しさに感謝しながら、絆と協働の共鳴社会づくりを進めていきたいと考えています。ピースボート災害ボランティアの皆様をはじめ、活動の推進にご尽力いただきました災害復興支援協議会、災害ボランティアセンターの皆様から感謝を申し上げます。

### 石巻市社会福祉協議会 災害復興支援対策課長 佐藤正幸 氏

東日本大震災の直後、いち早く石巻市に駆け付けて頂き、社会福祉協議会と連携・協力し合いながら支援活動をしたとの申し出を受け、暗闇の中に一筋の光が灯ったように感じたのを今でも鮮明に記憶しております。実際の活動では、物資が不足している地域の調査と適切な支援物資の配布、支援物資の保管・管理をはじめ、炊き出しにおいては自衛隊や申し出のあった個々の炊き出しチームの日程調整などで中心的な役割を担っていただきました。また、石巻中心部の商店街における泥だし、瓦礫撤去やボランティアテントサイトの共同トイレの清掃からゴミの回収・分別など、積極的に活動していただいております。今日までの復旧活動には、多数のNGO・NPO・ボランティア団体等の協力を得ておりますが、被災した方々が安心して暮らせる環境づくりに積極的に取り組んで頂いたピースボートの活躍に心から感謝申し上げます。

### 石巻災害復興支援協議会会長 伊藤秀樹 氏



震災後、沢山のボランティア団体が来石し、それを契機とし発足したのが石巻災害復興支援協議会です。過去例がない(石巻市)災害対策本部への参画をしつつ、多くの団体を受け入れ、調整・連携・相乗効果を高めていく過程でピースボートの役割は非常に大きかったと感じています。当協議会のNPO・NGO団体へのコーディネートが石巻方式、「奇跡のボランティア組織」と呼ばれる根幹には常にピースボートの後方支援がありました。4月10日に始まる「まちなかスマイルプロジェクト」では累計4万名ものボランティアが市内中央地区で活動し、そこには常に青ビブスの仲間活躍がありました。泥出しから皿洗いまで、多くの被災者の声に耳を傾け、心を支え、多くの店舗を再生してくれました。ピースボートは、泥出し・炊き出し・ダニバスターズ・入浴支援など様々な活動分野で中心的役割を果たし、石巻ではボランティア=ピースボートという市民認識が大きくなります。そんな活動を通して「被災者とボランティア」の関係がいつのまにか「人とひと」の絆になりました。そして、多くのボランティア仲間たちは石巻を第二の故郷と言ってくれます。全力復興への道のりは始まったばかりですが、これからも皆さんの熱いご協力をお願い申し上げます。

### 中里孝一 氏 (石巻市雄勝町船越の漁師)

ピースボートの元気な若いボランティアが浜にやってくると、嫌なことを忘れて笑うことができる。この人は、船も家もみんな流されてしまって、自分たちだけで頑張ろうとしてもどうしても気が減入ってしまう。年金生活者が多いから、炎天下の作業を手伝ってもらえるのは助かるし、そうやって一緒に汗を流して、ご飯を食べて、笑いが絶えない時間が本当に有難い。船越は必ず復興するから。上手い鮭鍋作って待ってるからな。

### 阿部紀代子 氏 (石巻市中央「八幡屋」の女将)

8年前(2003年宮城県北部地震)も、親戚やら遠くからボランティアが来てくれて、でも、彼らに食事や寝床を準備したりで、大変だったことがあるんです。ピースボートのボランティアさんたちは、きちんと自己完結して、毎日継続して来てくれて、泥かきも本当に丁寧な仕事でした。商店街は、本当にきれいになりました。今度は「遊びに来たよ!」と言ってもらえるように、自分たちも負けてられないなと。次は、絶対幸せが来る番だから。

## メディアでの紹介

〔テレビ〕

NHK「おはよう日本」、NHK「あさいチ」、日本テレビ「NEWS ZERO」×3回、日本テレビ「news every.」、日本テレビ「スッキリ!!」、テレビ朝日「報道ステーション」×2回、日本テレビ「ZIP!」、テレビ朝日「スーパーJチャンネル」、テレビ朝日「モーニングバード」、TBS「NEWS23X」、TBS「Nスタ」、テレビ東京「ガイアの夜明け」、テレビ東京「池上彰の緊急報告　大震災のなぜに答える第2弾」、テレビ東京「トコトンハテナ」、フジテレビ「とくダネ!」×2回、NHK「首都圏ネットワーク」×2回、仙台放送「あらあらかしこ」、NHK宮城放送局ニュース、MBSニュース、YTV「かんさい情報ネット ten!」、TVQ九州放送ニュース、NHK BS1「プロジェクトWISDOM」、CS朝日ニュースター「ニュースの深層」、TBSニュースバード「ニュースの視点」

〔雑誌〕

AERA×3回、ソフト×3回、日経ビジネスアソシエ×2回、週刊朝日臨時増刊、R25、MEN'S NON-NO、東京ウォーカー、東北ウォーカー、SEDA、BAILA、casa BRUTUS、outdoor japan TRAVELLER、月刊Touchdown、ニューインターナショナルリスト日本版、World Joint Club

※掲載の企業・団体名は、掲載の雑誌によって異なる場合があります。

物資提供やご寄付、温かいお手紙の数々など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。

個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人お一人の皆様にご心よりの感謝を申し上げます。

### ご協力いただいた協力企業・団体一覧(団体名は略称表記)

青山学院大学ボランティアステーション/アイリッシュ・ネットワーク・ジャパン/アオバヤ/アサザ基金/アスワン/アマタホールディングス/アル・ケッチャーノ/イトウ製菓/伊藤ハム/イケア・ジャパン/大木山養蜂/動く→動かす/浦和学院高校/小野田建設/オンザロード/オリンパス/岩沼農場/オリックスレンタカー/ガリバーインターナショナル/学生ビジネスティイわて/カタログハウス/カフエスロー/カーボンフリーコンサルティング/かめり財団/ぎゃらりい・富貴乃陶/キャンマーケティングジャパン/如月/キャンパー/京都造形芸術大学/呉市/近畿日本ツーリスト/クラレトレーディング/グリーンエナジー/クレアン/ゲットユニバーサル/コロンビア・スポーツウェア・ジャパン/コネクテック/小島の森ゴルフパーク/コスモスバス/ゴールドマンサックス/コクヨファニチャー/駒場学園/コンセプトバンク/在日米国商工会議所/在日英国商工会議所/在日カナダ商工会議所/在日ベルギー・ルクセンブルグ商工会議所/佐伯市/サイエンス/さくらガス/ザ・ポディショップ/サンユレック/サンモール・インターナショナルスクール/自然公園財団/ジィ・シー企画/ジャパングレイス/四万十塾/シチズン/信賴資本財団/ジャスト・ギビング・ジャパン/松竹/新宿区社会福祉協議会/スペイン料理イレーネ/西友/セカンドハーベストジャパン/全国身体障害者総合福祉センター/青少年教育振興機構/ソウル・フラワー・ユニオン/ソウルフラワー震災基金/ソフトバンク/アンド・アイ・プロダクション/第一生命/タニモト/ダン・ジャパン/大地を守る会/大成建設/高瀬物産/たこ八/高田馬場西商店街振興組合/チャリティ・プラットフォーム/チャイルド・フアード・ジャパン/つながろう南相馬/鶴金社中/鶴岡元気村/手塚プロダクション/テサテープ/トリンプ・インターナショナル・ジャパン/トウモ/東京英語いのちの電話/トップツアー/東京トヨベツト/トランセンド研究会/中野区立丸山小学校/中村調理製菓専門学校/なごボランティア・NPOセンター/ナビタイムジャパン/日本赤十字社/日本コストメntenダンス/日本エリクソン/日本ステージ/日本メトロニック/日本財団/日本アイ・ピー・エム/日本サッカー名議会/日本・バラグアイ商工会議所/日本被団協/日本光電/庭野平和財団/林屋紙器/ハルシステム/防災科学技術研究所/東日本大震災支援全国ネットワーク/日立建機/ビッグウェイブ/非暴力平和隊/白夜書房/ヒルトン東京/富士通/久世/ピープル・ツリー/被災地NGO協働センター/双葉社/ふうとぼんく東北AGAIN/福島大学/ブラザ/プロサス/ふきのとうギャラリ/フライングハウス/プリチストン/防災医療航空支援の会/ボランティア山形/松乃寿司/マクニカネットワークス/松林商事/マイケル・ペイジ・インターナショナル・ジャパン/三菱商事/港物産/南魚沼市企業部水道課/南相馬市/南相馬こどものつばさ/みちのく復興の会/三里塚ワンパック野菜/元岡商店/モトローラ/モンベル/山吹味噌/山田洋治商店/結いのき/ユウキ/吉川商店/横浜・インターナショナルスクール/ラジオパト・プロジェクト/リボン/ロチャース/ロットジャパン/ロフトプロジェクト/ロレオール/早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所/ワールドビジョンジャパン/ap bank Fund for Japan/Ayuntamiento de Manzanillo/Asociacion mexico japonesa/art&weise e.V./Being/BIG BOX/British School in Tokyo/Blue Man Productions Inc/Church World Service/Date fm/FUNN/FoE Japan/FoE International/FILM CRESCENT/FMわいわい/FM okinawa/Ganbatte365/Greenz.jp/Girls Generation/GRULAC/Habitat for Humanity/HSBC/HILTON WORLDWIDE/Houes church network/IVUSA/International Medical Corps/International Watch Company/JANIC/JICA地球ひろば/JICA東京/JICA中部/JAM/JEN/JIM-NET/LDH/LUSHジャパン/Masters Shipping/MAKE THE HEAVEN め組JAPAN/Mareike/Nigerian Union in Japan/New York Japanese American Lions Club/OKIDOKI network/P&G Japan/PCAT/Peaece Boat US/PWC Japan/Pikari支援プロジェクト/RQ市民災害救援センター/Red Dot Relief/R水素ネットワーク/Root Project/Shinjuku House/St Maur International school/Sunset Drive/SSEF/SGN/Symantec/TEAM HAMMER/The Japanese American Association of New York/Tribes/Think the Earthプロジェクト/Universidad EAFIT/Vargas estate of Venezuela/Walmart/WFP

〔新聞〕

朝日新聞×11回、読売新聞×6回、毎日新聞×6回、日経新聞×2回、東京新聞×7回、中日新聞×2回、河北新報×2回、石巻ほか×5回、福島民報×2回、福島民友新聞、京都新聞×2回、神戸新聞、西日本新聞×2回、The Japan Times×4回、THE DAILY YOMIURI×2回

〔ラジオ〕

J-WAVE「JAM The World」、J-WAVE「Hello World」、J-WAVE「LOHAS SUNDAY」×2回、TOKYO FM「シナプス」、TOKYO FM「World Shift → Radio」、Data FM「Crescendo」×0.5~1/週、Data FM「Listen」×0.5~1/週(6月まで)、RKBラジオ

〔海外メディア〕

The Economist(英国雑誌)×3回、THE HINDU(インド新聞)、HERALD de Aragon(スペイン新聞)、LANSI-SAVO(フィンランド新聞)、チリ国营テレビ、The National(UAE新聞)、Pacific Citizen(米国新聞)、The Telegraph(英国新聞)

※掲載の企業・団体名は、掲載の雑誌によって異なる場合があります。

個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人お一人の皆様にご心よりの感謝を申し上げます。

### ご協力いただいた大使館一覧

イラク共和国大使館/ウルグアイ東方共和国大使館/英国大使館/エクアドル共和国大使館/エジプト・アラブ共和国大使館/エルサルバドル共和国大使館/キューバ共和国大使館/グアテマラ共和国大使館/コスタリカ共和国大使館/コロンビア共和国大使館/サウジアラビア王国大使館/ジンバブエ共和国大使館/スリランカ大使館/チュニジア共和国大使館/ニカラグア共和国大使館/パナマ共和国大使館/パラグアイ共和国大使館/パレスチナ大使館/ベネズエラ・ボリバル共和国大使館/モロcco王国大使館

### 活動地域でのご協力企業・団体一覧(団体名は略称表記)

あいコープみやぎ/あいブラザ・石巻/アモール石巻/石巻市役所/石巻市災害対策本部/石巻災害復興支援協議会/石巻市社会福祉協議会/石巻専修大学/石巻青年会議所/石巻商工会議所/石巻赤十字病院/石巻スポーツ振興サポートセンター/石巻サッカー協会/石巻グランドホテル/石巻青果/石巻ボランティア支援ベース絆/岩城屋商店ガセスター/雄勝現生産販売協同組合/女川町役場/女川町社会福祉協議会/大船渡市企画政策部市民文化会館/大船渡第一中学校/コバルト観光/牡鹿観光/かめ七/木村自転車商会/廣山/コルバトーレ女川/サトー商会/斎藤青果問屋/自衛隊/春潮楼/高政/籾久建設/遠山不動産/ネットワークオレンジ/橋浦小学校/東松島市社会福祉協議会/船越浜作業部会/街づくりまぼう/マルヒ食品/マルソグループ/湊小学校/宮城県災害対策本部/八幡屋/やまだ/山と海と川/夢みの里/ラジオ石巻/渡波小学校/C&Cバイパス/guridrops/ISHINOMAKI2.0

### ボランティア派遣企業・団体一覧(団体名は略称表記)

青山学院大学ボランティアステーション/インターナショナル・スクールオブビジネス/ウィルコ/エスケーホーム/オグルヴィ・アンド・メイザー/オムロンフィールドエンジニアリング/カルビー/グラクソ・スミス・クライン/クラレトレーディング/コモンビート/ゴールドマン・サックス/コットエンド漁業支援プロジェクト/埼玉北部ヤクルト販売/在日米国商工会議所/在日英国商工業会議所/スリランカ大使館/寒河江日曜奉仕団/自由の森学園/シェフラー・ジャパン/ジャパングレイス/伸和エージェンシー/千駄ヶ谷日本語学校/創英ゼミナール/大地を守る会/大和ハウス多摩支店・武蔵野支店/高崎経済大学/チーム夢/デンソー/テサテープ/ディアーズ・ブレイン/東京海上日動あんしん生命保険・火災保険/東京ガス/トップツアー/東京トヨベツト/西東京農業協同組合/日新火災海上保険/日本メトロニック/日清食品/日本アイ・ピー・エム/日本光電/日本電気/日本語学校協議会/ピツニーボウズジャパン/ヒルトン東京/バルシステム東京/バイエル薬品/日立国際電気/フロンティアーズ(立教大学)/ホープ(関西学院大学)/マックャン・ワールドグループ/ミスユニバースの皆様/三菱商事/明治大学/モルガン・スタンレー-MUFG証券/ユニリーバ・ジャパン/横浜インターナショナルスクール/リボン/レノボ・ジャパン/ルネサンス高等学校/ワレニウス・ウィルヘルムセン・ジャパン/ACCJ/ACC21/ap bank Fund for Japan/BCCJ/Habitat for Humanity/HILTON WORLDWIDE/Link for 3.11(明治学院大学)/NGA/PwC Japan/PricewaterhouseCoopers Aarata/Youth for 3.11/37framesphotography

### 助成をいただいた企業・財団一覧(団体名は略称表記)

ジャパン・プラットフォーム/中央共同基金会/ラッシュジャパン、イギリス、ノースアメリカ/立正佼成会—食平和基金/Americares/Chuch World Service/CIVIC FORCE/Direct Relief International/Give 2 Asia Japan/Habitat for Humanity/Japanese American Citizens League/Swiss Solidarity

## 震災から学び、次の震災の被害を最小限にすること



(社)ピースポート 災害ボランティアセンター代表理事 山本 隆

山本 隆
(社)ピースポート 災害ボランティアセンター代表理事

山本 隆
(社)ピースポート 災害ボランティアセンター代表理事

私はこれまでに阪神淡路大震災の神戸やスマトラ沖津波被害のスリランカ、米国のハリケーン・カトリーナなど、数多くの被災地で活動してきました。しかし、最初に現地入り目にした光景は自分が今まで見てきたどの被災地よりも衝撃的なものでした。至る所が冠水した泥だらけの街、人々は土埃が舞う中を歩いていました。一方で支援活動は、情報が錯綜、自衛隊や地元行政による大動脈を通す活動に加え、毛細血管のように被災者一人ひとりに届く支援が必要でした。そのためには、1人でも多く、1日でも早いボランティアの応援が不可欠でした。

その後、PBVがこれほど早く、そして大規模に支援を始められたのは、NGOピースポートで28年に渡って築いてきた人的ネットワークとボランティアコーディネート経験の蓄積があったことが大きな要素でした。また、活動を受け入れてくれる社会福祉協議会や石巻復興支援協議会など、強力な地元のパートナーを見つけられたことも重要でした。そして、PBVの呼びかけに応じ、ボランティアに参加していただいた方、物資や寄付で活動をサポートしていただいた皆様のご協力があってこのプロジェクトは進んでいます。

これから私たちは石巻での支援を続けながらも、この震災から学び、次の震災の被害を最小限にすることを考えなければいけません。そのため、PBVではこの10月から災害ボランティアリーダーの人材育成のプロジェクトを始めます。9月初旬に発生した台風12号は、紀伊半島で大きな被害をもたらしましたが、すでに石巻でのボランティア経験のある若者たちが現場での支援に当たっています。今後、東海、東南海地震などへの備えも必要ですし、世界各地に目を向ければ、様々な自然災害が頻発しています。それらの災害現場に駆け付け、苦しい時には国境を越えて人と人が支え合える、そんな社会を作り出すことが、この震災で犠牲になった多くの尊い命に答えることだと考えています。

石巻では震災から半年が過ぎ、被災地ではこれから仮設住宅向けの支援が続くとともに、破壊された産業を再生するための長い復興のステージに入ります。石巻の復興への支援とPBVの活動に、これからも未永いご支援・ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

## 今後の活動内容

## 今後の活動内容

これまでの支援活動の継続
避難所が閉鎖になることで、入浴支援などの活動は終了しますが、泥かきや清掃作業、産業復興支援など、引き続きボランティアが必要な支援活動もまだまだ数多くあります。PBVでは、復興の状況に合わせ、必要な支援を継続して行っていきます。

## 今後の活動内容

仮設住宅への支援
10月には、石巻市でも避難所すべてが閉鎖される予定となっており、市内130ヶ所に約7,300ある仮設住宅での生活に移ります。PBVでは、地元行政からの重要な情報や地域でのイベント情報などをまとめた独自の新聞を編集・配布するなど、継続的なコミュニケーションと地域づくりを行っていきます。

国内外の自然災害に対する緊急支援活動
8月に福島県金山町、9月には和歌山県熊野川町などで、豪雨や台風被害による緊急支援ボランティアを派遣しました。東日本大震災での活動を継続しながらも、世界各国で発生する自然災害に対する独自の支援活動を展開していきます。

災害ボランティアとボランティアリーダーの人材育成
PBVでは、大学や自治体、企業とも協力し、現場で大規模なボランティアを指揮できるボランティアリーダーの人材育成プログラムを始めます。同時に、全国にその人材ネットワークを持つことで、今後の自然災害でも、いち早く効果的な緊急支援を展開できる体制づくりを目指します。

災害ボランティアとボランティアリーダーの人材育成
PBVでは、大学や自治体、企業とも協力し、現場で大規模なボランティアを指揮できるボランティアリーダーの人材育成プログラムを始めます。同時に、全国にその人材ネットワークを持つことで、今後の自然災害でも、いち早く効果的な緊急支援を展開できる体制づくりを目指します。

本部・事務局機能の強化
これからの活動を継続していくには、活動記録や情報発信をはじめ、多くの事務局スタッフの存在が必要となります。また、いち早い災害救援活動を展開するには、平常時での備蓄物資やそれらを保管する倉庫などハード面での備えも必要です。東京をはじめ、大阪、名古屋、福岡、札幌など全国各地での事務局強化を行っていく予定です。

(社)ピースボート災害ボランティアセンターへの  
募金にご協力ください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動、災害ボランティアの人材育成プログラムなど、ぜひPBVの活動を応援してください。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

#### 郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841(※下6桁は右ツメ)  
口座名：社)ピースボート災害ボランティアセンター

#### ゆうちょ銀行

ゼロイチキョウ店(019店)当座 0488841  
社)ピースボート災害ボランティアセンター

#### その他 取引先金融機関

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

※募金の一部は、通信費や事務局運営費など、救援活動に必要な一般管理費にも活用させていただきます。

その他の募金方法に関しては、下記ホームページをご覧ください。

<http://pbv.or.jp/donate.html>

#### 「ピースボート」とは

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地をめぐる「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに70回以上の航海を行ってきました。2011年までの28年間で、世界180以上の国と地域をめぐり、のべ4万人以上の方が参加しています。(社)ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)は、2011年4月、ピースボートで行ってきた国内外の災害救援の経験を元に、一般社団法人として設立されました。



ホームページ <http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは国連経済社会理事会の特別協議資格を持つNGOです。

東日本大震災 緊急支援 中間報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

編集：合田茂広

発行日：2011年10月1日

写真：Yoshinori Ueno, Mitsutoshi Nakamura, Kazushi Kataoka, Kenji Chiga, Shoichi Suzuki, Jon Mitchell, 37framesphotography Tracy Taylor & Dee Green

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL：03-3363-7967 FAX：03-3362-6073

E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp

URL <http://pbv.or.jp/>